YOMU YOMU JUNIOR 2026

浦安市立図書館　2026. 7

『世にもあいまいなことばの秘密』

川添愛／著　筑摩書房　2023年

誰かと話したり、メールをやりとりしたりする時に、うまく気持ちや意味が伝わらないのはなぜだろうか。言葉がかみ合わない例をもとに、どこからそのわかりにくさが生まれるのかを考えてみる。

『なんで人は青を作ったの？青色の歴史を探る旅』

谷口陽子、髙橋香里／著
クレメンス・メッツラー／画
新泉社　2025年

夏休み、中学1年生の蒼太郎と律は、科学倶楽部を主催する森井老人に頼まれ、昔の方法で青色を作る実験の手伝いをする。自然界にはほとんどないと言われる青色を、人類はどうやって作ってきたのだろうか。

＊「13歳からの考古学」シリーズより

『中高生のための表現読本 語感を磨くレトリック選』

石丸恵彦ほか／編　筑摩書房　2025年

エッセイや詩、手紙、物語など、10分程度で読める様々なジャンルの作品が収められたアンソロジー。それぞれの作品とその解説を読むことで、日本語の美しさや表現の面白さに触れることができる。

『世界を信じるためのメソッド ぼくらの時代のメディア・リテラシー』

森達也／著　新曜社　2025年

メディアは時おり間違った情報を伝え、私たちは簡単にそれを信じてしまう。私たちはどのように向き合えばよいのだろうか。

『マッドのイカれた青春』

実石沙枝子／著　祥伝社　2025年

高校三年生になった馬淵季子は、変わり者のふりをして孤独な学生生活を送ろうと決めていた。ところが、絶世の美少女マッドに気に入られてしまう。マッドの美しさが周囲の注目を集め、季子は騒動に巻き込まれていく。

『両手にトカレフ』

ブレイディみかこ／著
ポプラ社　2022年

幼い弟とドラッグに依存する母の世話をする14才のミアは、1冊の本と出会う。困難に立ち向かう女性の自伝に共感し、同級生からラップの歌詞を頼まれたことをきっかけに、ミアは新しい世界を切り拓いていく。

『探検家』

キャサリン・ランデル／著
越智典子／訳
ゴブリン書房　2024年

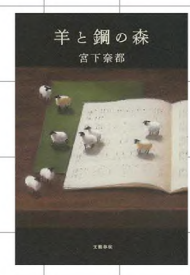
飛行機事故でアマゾンに取り残された4人の子どもたち。あおむしを食べ、いかだを作り、時には喧嘩しながら、必死で帰る道を探す。そんな中、謎の探検家と出会い、交流が始まった。過酷な自然の中で成長していく子どもたちの姿を描く。

『ペーパーボーイ』

ヴィンス・ヴォーター／作
原田勝／訳　岩波書店
2016年

吃音症のヴィクターは、夏休みの間、友だちの代わりに新聞配達をすることになった。様々な人々に出会い、対話し、ヴィクターは変わっていくが、ある日事件に巻き込まれる。著者の実体験を元にした物語。

＊続編あり



『羊と鋼の森』

宮下奈都／著　文藝春秋
2015年

高校の体育館で、偶然聞いたピアノの調律の音色に心を奪われた直樹は、調律師になる決心をする。山で育った青年が、ピアノという深い森の中で、悩み、失敗し、迷いながら、調律師として成長していく物語。

『セカイに漕ぎ出す君たちへの特別授業』

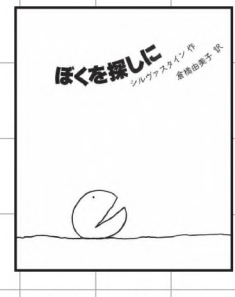
ジュニスタ編集部／編
岩波書店　2025年

友達に「将来のことが不安」と話すのは気まずいが、一人ではどうにもできないこともある。そんな気持ちのときは、人生の先輩の話を聞くのも一つの方法。様々な職業の講師がそれぞれの世界や思いを伝える。

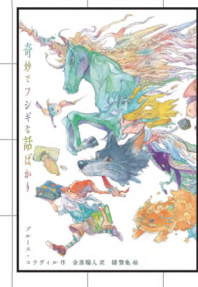
中学生のみなさんから募集したおすすめ本

『六人の嘘つきな大学生』
浅倉秋成／著
KADOKAWA　2021年

『また、同じ夢を見ていた』
住野よる／著
双葉社　2016年



『ぼくを探しに』
シェル・シルヴァスタイン／著
倉橋由美子／訳
講談社　1979年



『奇妙でフシギな話ばかり』
ブルース・コウヴィル／作
金原瑞人／訳　橋賢亀／絵
岩波書店　2025年

『ムギと王さま』
ファージョン／作
石井桃子／訳
岩波書店　2001年